

研究テーマ	校内ギャラリー計画に向けての課題制作を通して、制作意欲の向上や相互鑑賞の充実を目指した指導の工夫 ～第3学年「日本の美意識・金屏風の制作」の実践を通して～
-------	--

大子町立生瀬中学校 教諭 金谷 由香里

I 研究テーマについて

平成26年11月に本校で実施した学習・生活に関するアンケートの集計結果を見ると、「美術科の学習が以前よりわかる（授業が楽しい）」と肯定的な回答をした生徒は、84%であった。また、授業の様子を見ても楽しそうに制作に取り組む姿が見られた。しかし、「完成度の高い作品を制作する」ということや、「表現・技法にこだわって制作する」、「最後まで粘り強く制作に取り組む」といった意識は低かった。特に、3年生は、2年生の段階から、「完成度の高い作品を制作する」という意識は低く、制作途中で思うような絵が描けなかったり、制作時間が足りなくなったりすると、簡単なデザインに変更したり、中途半端な作品を提出したりするという態度が見られた。

そのようなことから、本校の生徒たちの美術科での課題は、完成度の高い作品を制作するために、真剣に課題に向き合う態度の育成であると考えた。そのためには、まず、今まで以上に制作意欲を向上させることが必要であると考え、作品を多くの人の目に触れる機会を設け、相互鑑賞の場として校内ギャラリーを計画した。校内をギャラリー化し、自己の作品を展示するという事は、親しい友人や同学年の生徒以外にも、美術科の時間にどんな作品を制作しているのか知らせることになる。よって、中途半端な作品を展示することはできないという意識が働き、以前より、完成度の高い作品を制作しようという意識して授業に取り組むと考えた。そこで、研究テーマを『校内ギャラリー計画に向けての課題制作を通して、制作意欲の向上や相互鑑賞の充実を目指した指導の工夫』に設定した。

授業の構想としては、まず最上級生の3年生の意識改革が必要であると考えた。3年生は美術科を必修科目として行うのはこれが最後になり、義務教育最後の美術科の課題制作において、完成度の高い作品を制作し、達成感を味わう経験をしてもらいたいと考え、3年生から校内ギャラリーでの作品展示を行うこととした。また、造形的な基礎技術が身についた3年生から展示を行うことで、1・2年生の中にも、課題制作において向上心が芽生えることを期待した。

展示を行う作品については、第3学年の年間指導計画の中から、展示を行った際に見応えのある金屏風の作品を選んだ。授業では、課題制作の途中で、現在制作中の作品は校内に展示するという事を随時話すように心がけ、作品展示に向け、今まで以上に向上心をもって制作に取り組むようになることを期待した。また、学習指導要領第2学年及び第3学年の内容 B 鑑賞（1）アの「造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと。」と関連させたいと考え、校内を相互鑑賞の場と設定することで、全校生徒が作品から感じたことを自由に批評し合える空間となることをねらいとした。

II 研究の実際

1 題材名

第3学年「日本の美意識・金屏風の制作」

2 題材の目標

金屏風という日本古来の伝統文化に関心を持ち、先人たちが残した作品について学び、学習成果を自ら制作する作品に生かすことで、金色が作品にもたらす効果を実感し、金色のもつ輝き、よさを味わうことができる。

3 題材について

（1）生徒の実態

本学級の生徒（男子7名、女子12名）は、美術科の授業に意欲的に取り組んでいる。2学年進級直後の授業では、自己の作品に対して、「よい物を作りたい」、「表現方法を工夫したい」、「自分の個性を發揮したい」等といった作品制作に対する思い入れが低く、制作意欲も低かった。しかし、モダンテクニックなどの絵画の表現技法を学び制作に生かしたことや、作品完成後に相互鑑賞会を実施して友達の

作品のよいところを探す活動をとおして、自信をもって取り組むことができるようになり、完成度の高い作品を制作しようという意識も芽生えはじめた。また、3学年での自画像の制作などを通し、自分自身と対峙することで、より作品制作に対して前向きに自信をもって取り組む姿が見られるようになってきた。

(2) 題材観

本題材は、日本文教出版より刊行されている教科書、美術2・3下P. 34, 35の『世界を魅了したきらめき』に関連する題材である。また、学習指導要領第2学年及び第3学年の内容A表現(3)ア「材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現すること。」をねらいとしている。日本では、古くから金箔や金泥など、金を使用した絵画や工芸品が数多く作られ、その作品は多くの人々を魅了し、伝統も受け継がれてきた。また、こうした文化は日本のみならず、世界中の人々を魅了している。しかし、生徒たちの中には、そういった日本古来の伝統や文化、金を生かした作品が数多く作られてきたという事実を知らない者も多い。本題材では、そういった生徒たちに日本の文化や伝統に目を向け、日本が世界に誇れる文化・芸術が存在することを知らせたい。金屏風は、金色のもつ輝きで、空間を明るく、非日常的な気分で満たす効果があるため、日本では、古来より祝い事に用いられてきた。生徒たちには今回の金屏風の制作で、金地の背景のよさや効果について学ばせ、制作した作品を自己の生活空間を彩るのものと家庭でも活用してもらいたいと考えた。

(3) 指導観

8時間の課題制作を通して、制作意欲の向上と作品の完成度を高めるための意欲付けのために、校内ギャラリーでの展示を常に意識させる言葉かけをしていきたい。また、生徒たちに自分の作品について自信をもち自己肯定感を高められるように、作品のよいところを認めてから助言をしていきたい。彩色に関しては、第1, 2学年での既習内容を生かすと共に、アクリル絵の具という描画材の特徴を再度学ぶことで、自己の作品に合う新たな表現方法を見つけ取り入れさせたい。

4 題材の評価規準 (B規準)

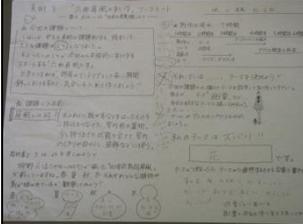
関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
屏風などの金色の効果を用いた表現に関心をもち、主体的に創意工夫して表したり、表現の工夫などを感じ取ったりしようとしている。	屏風などの金色の効果を生かした表現から感じ取ったことや考えたこと、想像したことなどを基に主題を生みだし、単純化や強調などを考え創造的な構成を工夫し、表現の構想を練っている。	アクリル絵の具の特性を生かし、表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。	金屏風のよさや美しさ、金色の効果を生かした表現から感じ取ったことなどを基にし、主題と表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。
A とするキーワード 継続的に意欲をもちながら 自主的に必要な資料を用意する	A とするキーワード 主題を深める独創的な構成を工夫し	A とするキーワード 材料の特性を効果的に生かして表現を追求し	A とするキーワード 根拠を明確にして深く

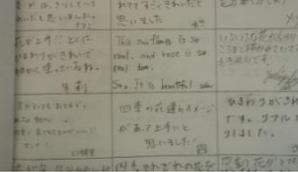
5 指導と評価の計画（8時間扱い）○印は時数

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 ①	<p>金色を効果的に用いた日本の絵画や工芸品を鑑賞する。</p> <p>【活動】 教科書・資料集等の図版資料から金色を効果的に用いた日本の絵画や工芸品を鑑賞する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書・資料集などの図版資料から金色を効果的に用いた日本の絵画や工芸品に関心を持ち、表現の工夫などを感じ取ったりしようとしている。 <p>関・鑑 【活動の様子・ワークシート】 (Cの状況の生徒への手立て)</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品の鑑賞のポイントを個別に伝える。
第2次 ①	<p>屏風に表したい主題とモチーフを考え、下図を描く。</p> <p>【活動】 屏風に表したい主題とモチーフを発想する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 美しさを考えた主題を構想することができ、感性や想像力を働かせて主題に合う下図を考案することができる。 <p>関・想 【活動の様子・下図】 (Cの状況の生徒への手立て)</p> <ul style="list-style-type: none"> 屏風絵の参考作品を準備しておき主題を構想する手がかりとする。
第3次 ①	<p>決定した構図に金色の効果を生かした彩色計画を立てる。</p> <p>【活動】 背景の金色との色彩の対比を考えて配色計画を立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 背景色である金色の効果を生かし、美しさや調和のとれた配色を考案することができる。 <p>想【活動の様子・下図】 (Cの状況の生徒への手立て)</p> <ul style="list-style-type: none"> 参考作品等を準備し、個別指導を通して表現活動を進めさせる。
第4次 ④	<p>配色計画をもとにアクリル絵の具を使って彩色する。</p> <p>【活動】 前時に作成した配色計画を基に、アクリル絵の具を使って大まかに彩色していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 制作の順序を考え、見通しをもちながら、創造的に屏風に彩色することができる。 <p>創【活動の様子・屏風】 (Cの状況の生徒への手立て)</p> <ul style="list-style-type: none"> 配色の進め方を助言する。
	<p>アクリル絵の具の使い方を工夫し彩色する。</p> <p>【活動】 アクリル絵の具の様々な使い方を復習し、表現方法を工夫しながら彩色をしていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> アクリル絵の具の特性を生かし、自分の表現意図に合う彩色を行うことができる。 <p>関・創【活動の様子・屏風】 (Cの状況の生徒への手立て)</p> <ul style="list-style-type: none"> アクリル絵の具を用いた様々な表現方法を個別に指導する。
	<p>細部の書き込みをする。</p> <p>【活動】 面相筆等を活用し、モチーフの細部を描いていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現することができる。 <p>創【活動の様子・屏風】 (Cの状況の生徒への手立て)</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品制作過程のがんばりを認め、自信をもたせる。
	<p>作品の仕上げをする。</p> <p>【活動】 全体のバランスを見て、色の塗り残し等がないか確認しながら作品の仕上げをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 作品をより良くしようと背景とモチーフとの調和や色彩のバランスを考え、作品を完成させることができる。 <p>関・創【活動の様子・屏風】 (Cの状況の生徒への手立て)</p> <ul style="list-style-type: none"> 最後まであきらめずに制作できるよう、励ます。
第5次 ①	<p>作品の鑑賞会をする。</p> <p>【活動】 完成作品を相互鑑賞し、作品から受ける印象をワークシートに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友達の作品から、金色の効果を生かした造形的なよさや美しさを主体的に感じ取ろうとし、文章化することができる。 <p>関・鑑【活動の様子・ワークシート】</p>

		<p>〈Cの状況の生徒への手立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品鑑賞のポイントを伝え、個別に指導する。
--	--	---

6 指導の実際

時間	学習内容・教師の提案	生徒の反応
第1次 ①	<p>教科書・資料集等の図版資料から金色を効果的に用いた日本の絵画や工芸品を鑑賞する。</p> <p>〈教師の提案〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 屏風の仕上がりのイメージがつかみやすいように、屏風の模型を見せる。 	 <p>金屏風の制作ということで、きちんと完成させられるのか不安を感じている生徒が多かった。ワークシートには教科書・資料集の図版をよく観察し、コメントを記入することができていた。</p>
第2次 ①	<p>屏風に表したい主題とモチーフを発想する。</p> <p>〈教師の提案〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 主題（テーマ）の統一を考えたが、生徒の自由で豊かな発想を引き出したいと考え、主題（テーマ）は自由に設定してよいことにした。 	 <p>これまでは教師が設定した主題（テーマ）に基づいての制作が多く、なかなかアイデアがまとまらず苦戦していた生徒が多かったが、主題（テーマ）を自由にすることで、下図作りも順調に進めることができた。写真のように資料を持参した生徒もいた。</p>
第3次 ①	<p>背景の金色との色彩の対比を考えて配色計画を立てる。</p> <p>〈教師の提案〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 金色の背景色を生かすために、できるだけ背景には色を置かないように提案した。 動植物を描こうという生徒には、図鑑等をよく観察し彩色するよう伝えた。 	 <p>背景の金色を塗りつぶそうとした生徒もいたが、背景色の金色を生かそうと提案することで改善された。いつもの課題よりも主体的に活動していた。</p>
第4次 ①	<p>前時に作成した配色計画を基に、アクリル絵の具を使って大まかに彩色する。</p> <p>〈教師の提案〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 彩色を効率よく進めるために、面積の広い部分から彩色を進めると画面全体に大まかに彩色していくことを伝えた。 	 <p>配色計画を見ながら彩色していくことで、見通しをもって彩色していくことができたようである。写真の生徒は、課題制作が遅れがちであったが、配色計画を立てたことと大まかに色を塗ることを指導したことで、いつもの課題よりも早く作業を進めることができた。</p>
②	<p>アクリル絵の具の様々な使い方を復習し、表現方法を工夫しながら彩色をすすめる。</p> <p>〈教師の提案〉</p> <ul style="list-style-type: none"> アクリル絵の具を使い始めて3年目となるが、彩色に対して苦手意識をもつ生徒や単色でベタ塗りをする生徒が複数名いたため、資料集等を活用し、水彩画の表現技法とアクリル絵の具の活用方法についてももう一度学ぶ機会を設けた。 	 <p>アクリル絵の具の使い方を資料集を用いて復習したことで、表現方法を工夫しながら彩色を進めていた。また、にじみやぼかしモダンテクニック等を活用する生徒もいた。</p>

③	<p>面相筆等を活用し、モチーフの細部を描く。 〈教師の提案〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 面相筆等を活用し細部の描写を丁寧に行うことで完成度がより高くなることを伝えた。 		<p>右の図は、『世界の花々』をテーマに描いた作品であるが、図鑑の写真を参考にしながら面相筆を用いて細部まで描写していた。</p>
④	<p>全体のバランスを見て、色の塗り残し等がないか確認しながら作品の仕上げをする。 〈教師の提案〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内ギャラリーで沢山の目に触れるということを強調し、机間指導を強化することで塗り残しがないか確認した。 		<p>右の図は、『季節の花々』と十二支をテーマに描かれた作品である。最後まで作品と向き合い、あきらめずに制作に取り組む姿が見られた。</p>
第5次 ①	<p>完成作品を相互鑑賞し、作品から受ける印象をワークシートに記入する。 〈教師の提案〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達の作品を相互鑑賞する機会は今回が最後になるということを伝え、制作過程のがんばりを認め、友達の作品のよさや美しさを見つけ中学校でのよき思い出になるようなコメントを記入することを提案した。 		<p>友達の作品のよさや美しさを見つけようと意欲的に活動していた。コメントを記入するだけでなく、感想を語り合う等の言語活動も活発に行われた。</p>

Ⅲ 研究の成果と課題

本題材では、生徒たちに作品の完成度を高めるための意欲付けのために、校内ギャラリーでの展示を常に意識させて授業を行った。校内ギャラリーの展示に向けての作品制作であるということを経験して声掛けをすることと、生徒に対する助言は作品のよいところを認めてから行うことという2点を毎時間意識した。その結果、見ごたえのある作品が多く仕上がり、校内各所に展示したところ、下級生や先生方、来校したお客様から高い評価を頂いた。そのことを生徒たちに話すととても満足した表情であった。

〈校内ギャラリーでの展示の様子〉



また、題材終了後に実施したアンケートからは、生徒たちの作品に対する満足度や校内ギャラリーに作品を展示することで制作意欲が向上したことがわかった。アンケート結果は以下のとおりである。

〈金屏風制作に関するアンケート〉平成27年3月9日実施（調査人数 3学年19名）

①	金屏風の制作は、あなたにとって充実した課題制作でしたか？
	はい 18名(95%) いいえ 1名(5%)
②	金屏風の制作では、自分の作品にこだわりをもって制作しましたか？
	はい 19名(100%) いいえ 0名(0%)
③	校内に作品を展示するという事で、制作意欲が以前より向上しましたか？
	向上した 17名(89%) 向上しない 0名(0%) わからない 2名(11%)
④	校内に作品が展示されることで、授業に参加する意欲や制作意欲が向上すると思いますか？
	思う 18名(95%) 思わない 1名(5%)

19名中18名が今回の課題制作が充実したものであると答えており、題材と作品完成度について満足していることが伺える。理由をたずねたところ、「構図を考えたり、色を塗ったりしたのが楽しかったから」、「完成した作品に満足しているから」、「屏風制作を行うのが初めてだったから」などということであった。④の制作意欲の向上についての質問でも、19名中18名が校内に作品展示されることで授業への参加や制作の意欲が向上したと答えている。理由をたずねたところ、11名の生徒が「友達などに完成した作品を見てもらうことにより、もっといい作品を作ろうと意識するから」と答えており、校内ギャラリーでの作品展示という目標が、制作意欲の向上につながったことがわかる。また、制作意欲向上のために必要だと感じることを聞いてみたところ（複数回答可）、「自分自身のやる気」が17名、「教師の助言」が13名ということで、教師側が適切な助言を行い、生徒たちの制作意欲向上につながるような題材や環境を整えることが重要であることがわかった。

今後の課題としては、今回の研究テーマの中に『相互鑑賞の充実』という文言も入っていたが、鑑賞の活動が活発に行えなかったことである。金屏風展示期間中に、3年生がクラスで相互鑑賞を実施した時のワークシートを展示し、作品を見た感想を付箋紙に記入し、模造紙に貼り出す鑑賞コーナーを設置したが、他学年の生徒たちの反応は非常に薄かった。言葉では「すごい」、「自分たちも3年生になったら同じ課題をやりたい」という声が聞こえたが、自分の思いを文章で伝えるということに関しては経験不足のせいか、行動に移せないといった課題が浮き彫りになった。今後はこの課題を改善できるように、今回と似たような環境を設定して、経験させていく必要があると感じている。

今回の研究をきっかけとして今後も校内ギャラリーでの展示を充実させていきたいと思う。そして、展示の企画・運営を生徒に任せることで、作品を作る喜びを味わう機会をより一層充実させたいと考える。

〈鑑賞活動の充実を図るための工夫〉



金屏風が完成するまでの制作過程の掲示



相互鑑賞用の掲示物（付箋紙を準備し、コメントを書き込めるようにした。）



3年生の鑑賞の授業で活用したワークシートの展示。展示することで、異学年の鑑賞活動（相互鑑賞）の様子を知ることができるとした。



〈参考文献〉

『中学校学習指導要領解説（平成20年9月）美術編』文部科学省 日本文教出版

『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 美術】（平成23年11月）』

文部科学省国立教育政策研究所 教育過程研究センター 教育出版